

○ 研究内容

授業風景①「礼法の指導」

礼儀を正し、相手を尊重することの重要性を伝える。



授業風景②「面打ち」

基本打突、基本となる技の練習を一斉に行う。



「形を重視した剣道基本稽古法」①

防具を装着せずに寸止めで「形」の練習を行う。



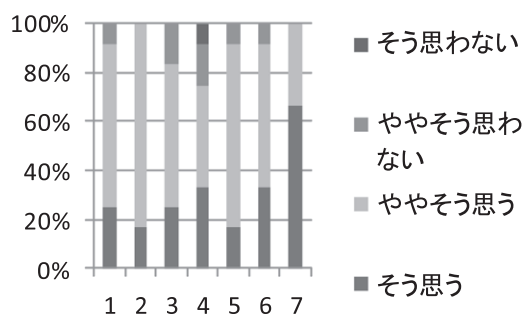
「形を重視した剣道基本技稽古法」②

かかり手と元打ちが互いにタイミングを合わせて行う。



【剣道に関するアンケート調査】

14時間の授業を終えてのアンケート結果



- 積極的に剣道に取り組んだ。
- 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとした。
- 技を身に付けるためのポイントを見付けることができた。
- 基本動作ができた。
- 基本となる技ができた。
- 技の名称や行い方、剣道において高まる体力などが分かった。
- 剣道に親しみをもち、楽しく取り組んだ。

【アンケート調査結果の考察】

剣道の学習前は、「痛そう」「疲れる」など不安な気持ちを抱いていた生徒も、学習後には全ての生徒が「親しみをもてた」「楽しく取り組めた」と答えていた。生徒の技能レベルにあった学習を進めることができたのだと思う。また、外部指導者を活用して「形」を中心にした基本動作や基本の技の伝達を重視したことで、多くの生徒に正しい動作や知識を伝えることができた。

3学年合同の授業であるため、習熟度の違いを授業でどう補うかが今後の課題である。単元の中盤以降には、上級生をスモールティーチャーとして授業に臨ませるなど、今後は課題解決型の展開を取り入れ、そこに外部指導者や教師がどう関わるべきかについての研究を進めたい。

学校と外部指導者との連携による効果的な指導の在り方について

学校名 八幡浜市立双岩中学校（愛媛県）
全校児童生徒数 39名（男子19名 女子20名）
種目等 武道（剣道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0894（22）4319
学校メールアドレス futaiwa-jh1@yawatahama.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 安全で楽しい剣道の授業づくり
- (2) 外部指導者との連携による効果的・効率的な授業実践

2 実践研究の概要

(1) 課題について

本校の保健体育教師は、剣道の指導経験が浅く、指導に不安がある。また、剣道具の装着等についても知識が不十分なため、10時間という少ない時間で、効率的な指導を行うことが困難である。

(2) 期待される成果（仮説）について

- ・外部指導者の専門的な知識や経験を生かして授業を進めることで、生徒は意欲的に学び、技能面の向上や態度面の進歩が期待できる。
- ・外部指導者の専門的な知識や経験を、保健体育教師が効果的に活用しながら授業を進めることで、生徒の実態に合わせた指導ができ、武道の学習のねらいを達成することができる。
- ・外部指導者と保健体育教師が協力することで、剣道具の装着や伝統的な所作の指導及び安全面の指導が的確に行える。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 研究方法

- (1) 授業中の動きを観察したり、ICT機器を活用したりすることによって、生徒の技能面の変容を分析する。
- (2) 武道についてのアンケート調査の結果から、生徒の変容を比較・分析する。

2 指導体制

第1・2学年の生徒（17名）に対し、外部指導者1名と教員2名（内1名特別支援）で指導した。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 他校が実際に行っている準備運動の仕方を指導していただき、けがの予防につなげた。
- 2 竹刀を使用するため、毎時間使用前にささくれがないか、弦や中結などの緩みがないかなどの点検をすることを徹底した。
- 3 活動の場では、互いの間隔を十分にとることや、竹刀を振るときは周囲に気を付けることなど、生徒一人一人に安全面についての配慮を徹底させた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 専門性の高い外部指導者の指導により、生徒は本物の剣道に触れることができ、短い時間の中で、剣道の魅力や楽しさを感じることができた。また、礼法についての話も適宜していただき、日本の伝統文化としての剣道を理解するよい機会となった。安全面についても、剣道で起こりやすい怪我を熟知している外部指導者から効果的な準備体操の仕方を指導していただき、安心して授業を行うことができた。
- 2 外部指導者を招いての授業は、生徒の技能面・態度面の向上において、大変有効であった。打合せの時間はあまりとれなかったが、外部指導者とFAXによる事前の打合せを行っていたため、スムーズに授業を展開できた。授業の進め方や学校の授業として指導したいことを外部指導者にはっきりと伝えておくことで、充実した授業が行えた。このことは、来ていただく方が変わっても、大切にすべきことだと思う。

○研究内容

【足さばきの練習（外部指導者による）】

竹刀を構えて前後左右の足さばきについて指導を受けている生徒の様子である。



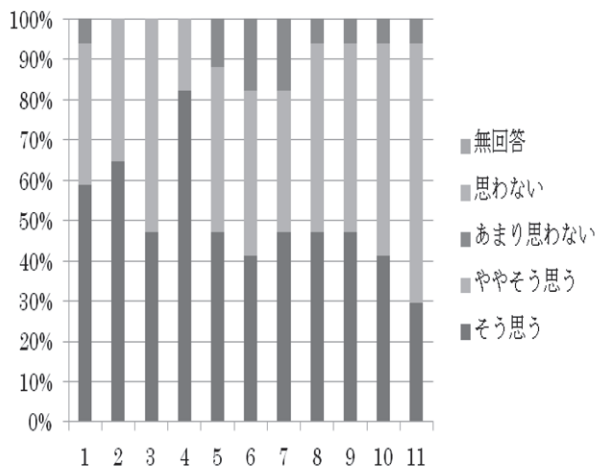
【指導者による模範の打ち込み】

外部指導者と保健体育担当教師が、模範の打ち込み（面・小手・胴）を生徒に示している様子である。



10時間の授業を終えてのアンケート結果

武道についてのアンケート調査



- 1 武道の学習に積極的に取り組もうとしている。
- 2 相手を尊重し伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。
- 3 分担した役割を果たそうとしたり、仲間の学習を援助しようとしていたりしている。
- 4 健康・安全に留意している。
- 5 技を身に付けるための行い方のポイントを見付けている。
- 6 課題に応じた練習方法を選んでいる。
- 7 学習した安全上の留意点を他の場面に当てはめている。
- 8 基本動作ができる。※基本動作を教員が示す。
- 9 基本となる技ができる。※基本となる技を教員が示す。
- 10 武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方などが分かる。
- 11 技の名称や行い方、武道に関連して高まる体力が分かる。

【成果と課題】

10時間終了後の結果を見ると、全ての項目において「そう思う」と「ややそう思う」という肯定的な意見の割合が80%を超えている。特に健康・安全についての質問4については、全員が、「そう思う」「ややそう思う」と答えており、安心して学習に取り組める環境であったと考えられる。また、基本的な技能や技の習得、武道の成り立ちや考え方についても、ほとんどの生徒が「できた」「分かった」と答えており、外部指導者の専門的な指導方法や知識が十分に発揮できたと考える。

しかし、10時間の全てにおいて大切に指導してきた、「相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。」「分担した役割を果たそうとしたり、仲間の学習を援助しようとしていたりしている。」という質問に対して「思わない」と答えた生徒が1名いたことは、残念であった。これから様々な学習を通して指導を継続したいと考えている。

また、「技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。」「課題に応じた練習方法を選んでいる。」「学習した安全上の留意点を他の場面に当てはめている。」については、肯定的意見の割合が若干少なくなっている。昨年度も同じような傾向があったが、剣道の授業では、指導・伝達する場面が多くなり、主体的な学習の場面が少なくなる傾向にある。今後は、意識的に生徒に思考・判断させる場面を増やしていくよう努力したい。そのためには、外部指導者との打合せや連携を、さらに大切にしていかなければならないと考える。